

雲南市幼児期運動プログラム〈実践編〉策定について

1. 策定の経過

雲南市「夢」発見プログラム幼児期版
作成（平成22年度）

幼児期に育てたい9つの力の一つに「いろいろな運動を楽しむ力」を掲げ、幼児期にめざす子ども像「健康で自立した子ども」に繋げていきたい。

スポーツ基本計画
（文部科学省：平成24年3月策定）

計画の中で、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化については、小学校の早い段階からその傾向が認められ、幼児期からの運動の積極的な取り組みの重要性が示されている。

平成24年度

文部科学省の委託事業による取り組みを開始

4
年
間

キャッチフレーズ： 『「体も心もげんきっき」「体をいっぱい動かそう」』

- ◇ 平成24年度 雲南市の幼児の運動に関する実態調査の実施
- ◇ 平成25年度 雲南市幼児期運動プログラム〈理論編〉を策定
- ◇ 平成26～27年度 雲南市幼児期運動プログラム〈実践編〉を策定

2. 子どもの実態と実践プログラム作成の視点

雲南市の子どもの実態（H22年10月幼稚園・保育所アンケート調査などより）

- 雲南市の小、中学校の運動能力は、県・国の水準を上回っている。
- 子どもが帰宅しても近隣に友達が少なく、群れ遊びが出来ない。
- 豊かな自然があるにもかかわらず、危機管理の面から川遊びなどほとんど出来ない状況。
- 遊び環境が変わってきており、川、山、崖などの遊び場所が減ってきている。
- 持久力や指先の力、脚力、バランス感覚などの体力に弱さがみられる。

実践プログラム作成の視点

- いろいろな遊びの中で十分に体を動かすことができるように
- 自分で体を動かして遊ぶことができるように
- 安全に楽しく遊べる環境づくり
- 保護者と一緒に、共に育てる

雲南市幼児期運動プログラム〈実践編〉

①冊子（指導者向け参考資料）

多様な動きが経験できる遊びの系統化／0歳児から就学期（小学校低学年）までの全ての発達段階をつなげる／保育者のプレーリーダーとしての役割／くらしの中で出てくる動き、特にお手伝いの中での体の動きを示し、大事な経験として提示

②リーフレット（保護者向け参考資料）

親子のふれあい遊びが年齢に応じてできるように、子どもの発達に合わせた運動遊びを紹介／運動遊びの意味と生活リズムとの関係を提示

③マップ（保護者、地域向け参考資料）

雲南市の豊かな自然の遊び場を掲載／地域の自然の中で家庭で遊べるよう多様な情報を提供

3. 今後の展開

- ◇ 〈実践編〉を活用し、保育者の質の向上をめざし、研修を重ねる。
- ◇ リーフレット・マップを通じ保護者や地域へ啓発し、市全体で幼児を支える機運を高める。
- ◇ 身体教育医学研究所うんなんが行う体力・運動量測定などに協力し、継続的に実態把握を行う。

小学校との連携